

コラム・会員の自慢

広島工業大学環境学部地球環境学科

<http://www.it-hiroshima.ac.jp/>

緑地保全学研究室 岡 浩平

k.oka.gw@cc.it-hiroshima.ac.jp



1. はじめに

筆者は湘南海岸や遠州灘海岸などをフィールドにして、海浜植生の保全に関する研究に取り組んできました。2009年3月に武蔵工業大学（現：東京都市大学）にて学位を取得後、2011年4月より広島工業大学環境学部地球環境学科に着任しました。学会員の皆様には馴染みの薄い大学かと思しますので、大学・学科を簡単に説明した後に、立ち上げたばかりの研究室を紹介します。

2. 広島工業大学

広島県には、厳島神社と原爆ドームの二つの世界文化遺産があります。広島工業大学のキャンパスは、二つの世界文化遺産のほぼ中間に位置しています。大学キャンパスは、モミの自然林が成立する極楽寺山（標高 693m）を背後に構え、前方には瀬戸内海が広がる自然豊かなところ です。

本大学は、工学部、情報学部、環境学部、生命学部の合計4つの学部から構成されています。在学生数は4500名ほどで、理系の中規模大学に相当します。2011年に創立50周年を迎え、約4万人の卒業生が広島県を中心に活躍しています。地元の中四国地方では、ユニークなCMでお馴染みになっています。

3. 地球環境学科

環境学部地球環境学科は、環境情報・地球科学・環境共生の3つの分野から構成されています。環境情報分野では、人工衛星画像データを用いて、土砂災害や津波災害などの監視・分析を進めています。可動式の受信アンテナを用いて、衛星データを直接受信しているため、いち早く災害状況を分析できます。地球科学分野では、ヒートアイランド現象や山岳氷河の融解、津波のシミュレーションなど気象に関する研究を主に展開しています。環境共生分野では、リサイクルや水質浄化、自然再生などをテーマに研究しています。

地球環境学科には幅広い専門分野の教員が所属しているため、学科教員と連携することによって、新たな緑化手法の開発が可能ではないかと模索しています。

4. 緑地保全学研究室

当研究室は、地球環境学科の環境共生分野の一端を担って

います。2012年度は、教員一名に対して、学部3年生10名、4年生8名が所属しています。2013年度からは大学院生も進学し、調査機材の整備なども含めて、徐々に「研究室」らしくなりつつあります。地方にある大学のためか、研究スペースにゆとりがあり、快適に研究できる環境は整っています。

2012年度は初めて卒業研究の指導を担当し、砂浜や河口砂州、河川敷の植生などをテーマとして扱いました。その他にも、竹チップによる雑草抑制や根粒菌による成長促進など、緑化工学に直結するテーマも行っています。本学会の大会などを通して、今後は学生の研究も積極的に発信する予定です。

5. 今後の展開

広島に来て気づいたことが二つあります。一つは、瀬戸内海には筆者の研究対象である「砂浜」が非常に少ないことです。広い面積の砂浜は虹ヶ浜（写真-1）などに限られているため、これからは砂浜以外にもフィールドを広げていきたいと考えています。もう一つは、地方には研究されていないフィールドが多くあることです。首都圏にいた頃は、人口密度が高いためか、条件の良いフィールドでは誰かしらが研究していました。地方のフィールドには、新しい発見の可能性がまだ多く残されているように感じています。このようなフィールドを活かして、学生と一緒に研究成果を積み上げていこうと燃えています。

広島は「3本の矢」の教えで有名な戦国武将の毛利元就を生んだ地でもあります。今後は、近隣はもちろん、多くの学会員の皆様と束になって研究できることを期待しています。



写真-1 山口県光市の虹ヶ浜